

フィールドワークショップで雷別を案内



湧水の水質検査

8月10日（日）、釧路湿原自然再生協議会の再生普及小委員会主催によるフィールドワークショップが開催されました。また、オプション企画として当ふれあいセンターが実施している雷別地区自然再生事業の現地見学会が行われました。

フィールドワークショップは、釧路湿原自然再生普及行動計画の具体的な取組みであるワンダグリンダ・プロジェクトの参加者を対象として、参加者に釧路湿原の「今」を知り、湿原で起きている変化等を見ていただくことをねらいに、今年度から実施することになったもので、その第1回目として開催されました。釧路湿原の東側にある塘路湖では「塘路湖の森と湧き水」と題し、塘路漁協組合長と釧路市立博物館学芸員を講師として招き、森林と湧き水や地質と湧き水の話聞いた後に、実際に湧き水の量を簡単に測る方法や湧き水の水質の測定等を体験しました。

午後からは、14名の参加者が雷別に移動し、自然再生事業の概要説明と市民参加の具体的な取組状況について説明しました。また、実際に市民参加で行っているポット苗木の育成体験ということで、育成ポットへのハルニレ苗の移植作業と鹿食害防護具の設置作業を行って



鹿食害防護具の設置

らいました。普段、森林の作業を経験したことがない参加者の皆さんからは、「貴重な体験をさせてもらい、釧路湿原保全のために色々な取組が行われていることを知ることができた。」とのご意見があり、今回の開催の目的が果たせたのではないかと考えています。



事業の概要説明



育成ポットへの移植